

「LBR Check Sheet」

- ・「LBR Check Sheet」は、英文読解のベースとなる必須の技法・ルールを、Q&A方式でチェックできるシートです。
- ・読解力向上のためにはどれも欠かせない必須のものばかりです。即答できないものがないよう、しっかりとこのシートでマスターを目指してください。
- ・特にバックがグレーになっている項目は、驚異的な語彙力・意味類推力の向上につながる(「形からの意味の類推法」に関連する)ルールです。まずこれらの項目から優先してチェック・マスターを図ると良いでしょう。

<p>英文中での「名詞」の動きは？</p>	<p>(1)「主語(S)」「目的語(O)」「補語(C)」になる。 (2)「前置詞」「準動詞」の目的語等になる。 ※ただし「時」「方法」「場所」「距離」「程度(頻度)」などを表す名詞については、文中での動きは「副詞」と同じであることが多い。</p>
<p>英文中での「前置詞+名詞」の動きは？</p>	<p>(1)(直)前の名詞を修飾する。 (2)名詞以外を修飾する。 ※「前置詞+名詞」は(基本的に)S・O・Cにはならない。 (特に前に名詞がある場合は)80%は、(1)の動きと見るといい。</p>
<p>英文中での「形容詞」の動きは？</p>	<p>(1)直前直後の名詞を修飾する。 (2)「SVC」「SVOC」の「C」になる。 ※形容詞は、語尾が -ful, -less, -tive, -able, -ible, -ary, -ous, -ic, -ical, -ial, -ual, -ate[ite], ient, iant 等で終わるものが多い(全てではない)。 ※直前直後に修飾できる名詞がなければ、「C」になっていると判断していい。 ※ただ(beingが省略された結果)形容詞が導く句が分詞構文を作ることもある。</p>
<p>英文中での「副詞」の動きは？</p>	<p>名詞以外(「形容詞」「副詞」「動詞」「文全体」のいずれか)を修飾する。 ※副詞は語尾が -ly で終わるものが多い。また基本的にS・O・Cにはならない。</p>
<p>英文中での「自動詞」「他動詞」の区別の仕方？</p>	<p>(1)後ろに目的語になれそうな名詞があれば(その動詞は)他動詞。 ※ただし remain C(Cのまま)等、Cに「名詞」をとる自動詞もあるので注意。 (2)目的語が見あたらなければ(その動詞は)自動詞。</p>
<p>「名詞句[節]」「形容詞句[節]」「副詞句[節]」の機能は？</p>	<p>(1)名詞句[節]はSOCになる。又は前置詞の目的語になる(つまり前置詞の後ろに置かれる)。 (2)形容詞句[節]は(代)名詞を修飾する。 ※形容詞節の99%は関係詞節。「形容詞節＝関係詞節」と考えていい。関係詞節以外で(前)の名詞を修飾できるのは、同格節、as節くらい。 (3)副詞句[節]は名詞以外を修飾する。 ※特に主節より左側にある語[句・節]は、(倒置・文の要素の移動を除き)基本的に副詞[句・節]になる。</p>

節の終わりの見極め法は？	節の初めから数えて2つめの動詞よりも(手)前でその節は終わっている。 ※ただしその節内に更に別の節が存在する場合、その(別の)節内の動詞を、(動詞を)数える際の数に入れてはならない。
what と how が導く節や句の役割[働き]は？	基本的に「S(主語)」「O(目的語)」「C(補語)」のどれか、また前置詞の後ろでその「目的語」になる(つまり名詞節[句]になる)。 ※例外はwhat is more(おまけに)などの決まり文句的なもの。
文の主要素を決定する際、一旦()でくくってしまうといいもの(つまり文の骨組みにはならないもの)は？	(1)前置詞+名詞 (2)副詞(-ly) (3)関係詞節 (4)カンマ(,)やダッシュ(-)で囲まれた箇所 (5)主節よりも左側にあるもの
主節より左側にある語[句・節]の英文中での動きは？	(倒置・文の要素の移動を除き)基本的に副詞[句・節]になる。
㊦と㊧の間の挿入部分の可能性は？	それが名詞なら、直前の㊦の性質・身分・状況・行動等を説明している(つまり㊦と内容的に1対1関係)。 ※挿入部がthat節なら、100%㊦を修飾し、㊦を説明していると見ていい。
thatが接続詞なのか関係代名詞なのかの見極め法は？	(1) that + 不完全な文 ⇨ (that)は「関係代名詞」 ※「不完全な文」とは、S・O・Cのどれか一つが欠けた文のこと。 (2) that + 完全な文 ⇨ (that)は「接続詞」 ※関係代名詞のthatの働きは、基本的に一つで「(直)前の名詞[先行詞]を修飾する」ことだけ。
後置修飾の過去分詞の見極め法は？①	本来他動詞であるべきはずの「~ed」が、後ろに目的語をとっていないなら、それは過去分詞であると判断する。
後置修飾の過去分詞の見極め法は？②	同じ節内に (1)助動詞(+V[原形]) / have[had]+p.p.~ (2)be動詞 (3)一般動詞の現在時制 のいずれかがあったらそれが節内の動詞。
後置修飾の過去分詞の見極め法は？③	後ろに受け身を表わす by があれば、それは過去分詞だと判断する。
等位接続詞(and・but・or 等)によって結ばれた両者の特徴は？	(1)構造的に等しい。 (2)文中での働き[機能]が等しい。 ※異なる品詞[形]同士でも、文中の機能が同じなら、(機能優先で)等位接続詞によつて結ばれることはあり得る。
and の後ろに副詞が省略されている場合の可能性は？	(1) and (also) : しかも、また (2) and (so/ therefore) : それゆえ (3) and (then) : それから (4) and (yet) : しかし ⇨ 意味的にはbutと同じ。要注意!

<p>「～かどうか」と訳せる whether 節の特徴は？</p>	<p>(1) S・O・Cのどれかになっている。 (2) 前置詞の後ろに置かれている。 (3) 節内に「for not」「A or B」のない whether 節は100%「～かどうか」。 ※ただし「for not」等がついている場合は、「～かどうか」「～であろうとなかろうと」の両方の可能性がある。 (4) whether to do[原形]～は「～すべきかどうか」。</p>
<p>「～であろうとなかろうと」と訳せる whether 節の特徴は？</p>	<p>whether 節が S・O・C のどれにもなっていない。</p>
<p>「S+V from～」型の意味は？</p>	<p>(1) 「Sは～から(もどって・やって)来る・移動する・遠ざかる」 會「～」は「(動作などの)起点」を表す。 (2) 「～が原因となって(縁として)Sが生じる」 會この場合、「S=結果」「~=原因」の意味関係になる。またSは「物事」を表す名詞であることが多い。 (3) その他(「suffer from A: Aに[で]苦しむ」等)。</p>
<p>「S+V into～」型の意味は？</p>	<p>(1) 「～の中へ[に]入る」 會「～」は「場所(帰着点)・空間・時間・事業・活動」。 (2) 「～に変わる」 會「～」は「(変化した)結果」。</p>
<p>「S+V for～」型の意味は？</p>	<p>(1) 「～に向かって進む」 (2) 「～を求める」 (3) その他 ・ pay for A: ①「A(品物)の代金を支払う」 ②「A(人)に代わって代金を支払う」 ・ be for A: 「Aのためのものである」 ・ work for A: 「Aのために働く」 ・ fit for A: 「Aに向いている」 ・ stand for A: 「Aを表す、象徴する」 會上記以外でも「～の間」という for と動詞が結びついて run for～(～の間走る)、last for A(Aの間持ちこたえる)、「～に賛成して」という for と動詞が結びついて vote for～(～に賛成投票する)等もありうる。</p>
<p>「S+V to～」型の意味は？ 會to = 「前置詞」の場合。</p>	<p>(1) 「～へと(自分自身を)送り込む」 「～に(まで)至る」 會こちらが重要! (2) 「～に対して○○する」 會「～」は主語の行う行為の対象。 (ex) appeal to ～, admit to ～等 會例外として add to Aがある。これは「Aを増す、増やす」という意味。</p>

「S+V in (～)」型の意味は?	<p>(1) 「(～)の中に入る」「～にまで至る」 (2) 「始まる・動く[き出す]」 會「ある状態・行為の中に入る→始まる・動く[き出す]」となった。 (3) 「～の中にいる[ある]・とどまる」 (4) 「～を中に入れる」「～を取り[受け]入れる」 ☞ S+V ~ in. となることもある。</p>
「S+V with ～」型の意味は?	<p>(1) with が「～と共に[一緒に]」という意味の場合は、「Aと共に存在する」「Aと共に行く[来る]・変わる」と、「存在」や「移動・変化」を表すことが多い。 (2) with が「手段・原因」を表す場合は「Aをもって[が原因で]○○する」。 (3) with が「関係[対象]・対立」等を表す場合は「～を相手に[として]○○する」「に向かって○○する」。</p>
「S+V out of ～」型の意味は?	<p>(1) 「～から出ていく[くる]、出る・～から出て[離れて]しまっている」 (2) 「～がない」</p>
「S+V out」型の意味は?	<p>(1) 「外へ出る[出ている・出ていく]」「現れる」 (2) 「無くなる[無い]」「消える」 會以下のような「S+V out」もある。 (ex) Look[Watch] out! 気をつける Your idea is out. 君の考えは間違っている fill out いっぱいに満たす なみなみとつぐ 會「S+V out～」型は、「①～を外へ出す②(外に出した結果)～を消す・無くす」(「退出のout」の場合)か、「(外に出した結果)～を現す、明らかにする」(「出現のout」の場合)。また比喩的に「～をやり遂げる」となることもある。「やり遂げる」となるのは「退出out」の発展形。「物事を(やるべき)活動の範囲から出す(はずす)→物事を(最後まで)やり切る・やり終える→やり遂げる、徹底的にやり尽くす」となった。</p>
「S+V away[aside]」型の意味は?	<p>「遠ざかる[脇にどく]」 會 S+V away[aside]～ / S+V～ away[aside] なら「～を遠ざける[捨てる・どかす・片づける]」。awayの場合、「遠ざける」でいいがasideの場合、「①取り除く、捨てる②(後で必要な)ので取っておく」の2つの意味の可能性がある。</p>

「S+V back」型の意味は？	「(元)に戻る、さかのぼる」 $\text{S}+\text{V back to} \sim$ なら「 \sim に戻る、さかのぼる」。 $\text{S}+\text{V back} \sim$ なら「 \sim を(元)に戻す」。
「S+V up」型の意味は？	「立ち上がる、Sが(突然)現れる」 put up (宿泊する)、 sit[stay] up (寝ないで起きている)等、例外的なものもある。
「S+V off」型の意味は？	「離れる[れている]」「出る[ている]」 $\text{S}+\text{V off}$ として、 This pork is off. (この豚肉はいたんでいる)などがある。これは「本来の(食べられる)状態から離れている→痛んでいる」ということ。 $\text{S}+\text{V} \sim \text{off} / \text{S}+\text{V off} \sim$ なら「① \sim から離れる[れている]、出る[ている]、② \sim を離れた[出た]状態にする[なる・である]」。
SVC(第二文型)の見極め法は？	「 $\text{S}+\text{be}$ 動詞」の後ろに「(後ろに名詞をもたない)形容詞」「名詞」「動名詞」「that節」「whether節(\sim かどうか)」「疑問詞節」などがあつたら、それらはCとみてほぼ間違いない。 be 動詞は「イコール記号」と考えたらいい。
SVC(第二文型)の意味の類推法は？	「SVC」構文を作るすべての動詞は、 be 動詞又は become (つまり「 \sim である」「 \sim になる」)で置き換えることができる。
SVO(第三文型)の意味の類推法は？①	目的語によっては、(その目的語に対して働きかける)動詞の種類、意味を文脈・状況・常識から類推・限定可能。その際、日常生活の基本動作(「言う」「思う」「見る」「わかる」「作る」「壊す」「する[行う]」「出す」「取る」「触れる」等)のどれかを当てはめてみるといいことが多い。
SVO(第三文型)の意味の類推法は？② $\text{O} = \text{that}$ 節の場合。	(1)「V」の意味は「言う」「思う[みなす・考える]」「知る[分かる]」。 (2)ただし「S」が「物・事」の場合は、「示す」と訳した方がいいこともある。 ※接続詞の that が省略された結果、「 $\text{S}+\text{V} \sim$ 」といった構造になることもあるが、訳し方は同じでいい。
SVO ₁ O ₂ (第四文型)の意味の類推法は？	「SはO ₁ にO ₂ を与える」 $\text{S}+\text{V}$ 第四文型かどうかの見極めは、(第四型は)動詞の後ろに種類の異なる名詞が2つ並ぶ構造になるのがその特徴。

<p>「SはO₁にO₂を与える」以外のSV O₁ O₂の意味は？</p>	<p>「AにBを与えない」 「AからBを奪う[取り除く]」 (ex) deny A(人) B(物) : AにBを与えない[使わせない] spare A(人) B(苦勞等) : AにBを与えない save A(人) B(勞力) : AからBを取り除く charge A(人) B(金) : AにBを請求する cost A(人) B(生命・仕事・犠牲) : AからBを奪う cost A(人) B(金額・費用) : AからBを奪う[取る] take A(人) B(時間など) : AからBを奪う[取る]</p> <p>會 spareには「AのためにBを割いてやる」という「与える」型の用法もある。 ① Could you spare me a few minutes? 少し時間をとってくださいませんか ② I will spare you trouble. あなたにご迷惑はかけません ①は「AにBを与える」型のspare。②は「AにBを与えない」型のspare の用例。その他として「envy A(人) B(物事): AのBをうらやむ」 「wish A(人) B(幸せ・挨拶): AのB(幸せ)を願う、AにB(挨拶) を言う」などがある。</p>
<p>SVOC(第五文型)の意味の類推法 は？</p>	<p>(1) 「V」が「知覚動詞」「思考動詞」なら、 (OとCに「主語と述語」の関係があることを意識して)左から右に直訳 すればいい。 (2) 「V」が上記以外なら、 「Sが原因となって[Sのおかげで・せいで/Sによって]、結果 としてOはCする」と訳せばいい。 (3) 「SVO (to) do[原形]～」型や「SVO into doing～」型は、「SはOが～する方向に仕 向ける」と訳してもいい。 (4) ならば「SVO from[out of] doing～」型は、 (その逆と考へて)「SはOが～しない方向に仕向ける」 又は「Sが原因となって[Sのおかげで/Sのせいで]」 結果としてOは～しない「できない」と訳せ る。</p>
<p>セリフを目的語に取る動詞の意味は？</p>	<p>「言う」と訳せることが大半。</p>
<p>「◎+◎+O(人)+that S+V～」型 の意味は？</p>	<p>「◎はOに～を伝える[知らせる]」 會 thatは省略されることもある。</p>
<p>以下の構文の意味は？</p> <p>(1) 「◎(人)+be動詞+過去分詞[形容 詞]+that S+V～」型。</p> <p>(2) 「◎(人)+◎+oneself+that S+V ～」型。</p>	<p>「◎は～だと知っている[思っている]」 會 thatは省略されることもある。</p>

「It is + p.p. + that S+V～」型の仮主語構文の意味は？	(1) 「～だと言われている・報じられている」 (2) 「～だと思われる[ている]・みなされる[ている]」 (3) 「～だと示される[ている]」
「～, ㊦+㊧.」 「～, ㊦+㊧, ～」型の挿入された主節の㊧の意味は？	seem, hear 以外なら「言う」「思う」。
「～, ㊧+㊦.」 「～, ㊧+㊦, ～」型の挿入された主節の㊧の意味は？	「言う」と訳せばいい。
「動詞 + A with B」型の意味は？	(1) 「AにBを与える」 (2) 「AをBと結びつける」 ㊦もちろん「A with B」のwithが「～と一緒に」「～でもって」等という意味の場合もあるので、注意は必要。
「動詞 + A for B」型の意味は？	(1) [A for B のforが「理由のfor」だった場合] ⇒ 「賞罰」を表す動詞がくることが多い。 (2) [A for B のforが「イールのfor」だった場合] ⇒ 「交換する」「みなす」型が多い。
「動詞 + A of B」型の意味は？	(1) 「A(人)からBを取り去る[取り除く]」 (2) 「B(人)にAを求める」 (3) 「A(人)にB(情報・考え・記憶・警告等)を与える」
「動詞 + A from[out of] B」型の意味は？	(1) 「Aが[を]Bから離れる[離す・別れる]方向に向ける」が意味の基本。 (2) 具体的には以下の3タイプ。 ① 動詞 + A + from[out of] doing～ 「Aが～しない[できない]ようにする」 ㊦これは、要するに先程の「S+V+O+from doing～」タイプ。 「Sが原因となって結果としてOは～しない[できない]」と訳してもいい。 ② 「AとBを区別する」 ③ 「BからAを得る[出す・分ける]」
「動詞 + A on B」型の意味は？	「AをBに与える[Bの上に置く]」
「動詞 + A into B」型の意味は？	(1) 「AをBに変える」 (2) 「AをBの中に入れる」 = 動詞 + A in B
「動詞 + A off B」型の意味は？	「AをBから離す[遠ざける]」

「動詞 + A to B」型の意味は？	<p>(1) 「AをBに与える[伝える、加える]」 「AはBのせいだと考える」</p> <p>(2) 「AをBに連れてゆく[くる]、もたらす」 「AをBに合わせる」</p> <p>(3) 「AをB(状態・性質)に変える[にする]」 ㊦このうち「与える」型が一番多い(約60%)。「もたらす」型が約30%)。</p>
「動詞 + A as B」型の意味は？ 「動詞 + A to be B」型の意味は？	「『AはBだ(A=Bだ)』とみなす[思う]/言う」 ㊦「A as B」「A to be B」は「A=B」と考えよ。「みなす」と訳す動詞の方が多い。
S・O・Cになる不定詞の訳し方は？	「～すること」
(直)前の名詞を修飾する不定詞の訳し方は？	<p>(1) 「～すべき」 (2) 「～するための[ような]」</p> <p>(3) 「～する[できる]という」 ㊦(3)は「同格」の場合。</p>
それ以外の不定詞(いわば「その他型」)の訳し方は？	70%は「目的(～するために)」か「結果(そして～等)」。
結果の不定詞の見極め法は？	その不定詞部分を「接続詞+S+V～」で書き換えられる。
不定詞が感情の原因を表す場合の見極め法は？	不定詞の前に感情を表す語(品詞としては「動詞」や「形容詞・分詞」)がある。その場合、不定詞部分は「～して」「～できて」と訳せばいい。
不定詞が判断の根拠を表す場合の見極め法は？	不定詞の前に人の性質・性格を表す語(品詞としては「名詞」や「形容詞・分詞」)やgood型・bad型の形容詞(分詞)等(要するに「判断を表す語」)がある。その場合、その不定詞部分は「～なんて」「～とは」と訳せばいい。
不定詞が条件を表す場合の見極め法は？	<p>主節に推量の助動詞(will[would], may[might], can[could]等)があることが多い。</p> <p>㊦逆に「強制力の強い動詞」が主節の○なら、その不定詞句は「目的(～するために)」の可能性が高い。</p> <p>その場合、その不定詞部分は「もし～(なら)」と訳せばいい。</p>
be to 構文の特徴は？	<p>(1) be動詞を挟んで前後がイコール関係にならない。 ㊦単なるSVCとなる場合、be動詞を挟んで前後はイコール関係になる。</p> <p>(2) 助動詞の will, can, should[must] のどれかで言い換えることができる。 ㊦should[must]で訳すといふことが多い。</p>

準動詞の完了形(to have+p.p.~/having p.p.~)の表す意味は？	主節の動詞よりも1つ前(昔)の内容(嘸)を表す。
for A to do[願]~という構造を見かけたら？	Aとto do[願]~部分には、主語と述語の意味関係が成立している。 罇「A=不定詞の意味上の主語」。
動名詞の前に名詞があったら？	その名詞と動名詞との間には、主語と述語の意味関係が成立している。 罇「名詞=動名詞の意味上の主語」。
分詞構文を構成する分詞の前に名詞があったら？	その名詞と分詞との間には、主語と述語の意味関係が成立している。 罇「名詞=分詞の意味上の主語」。
分詞句が文頭・文中盤にある分詞構文の訳し方は？	(1)[時] 「~のとき(間)」 「~(しようと)する」と 「~につれて」「~した後」等 (2)[理由] 「~なので」「~により」 (3)[条件] 「もし~なら」 (4)[譲歩] 「~だけれど」「たとえ~としても」 罇(1)~(4)の順番通り覚えるといい。
「形容詞句[過去分詞句]~, S+V …」といった構造を発見したら？	形容詞[過去分詞]の前に being が省略された分詞構文と判断する。
分詞句が文章後半にある分詞構文の訳し方は？	(1)[連続] 「そして~(する)」 (2)[同時] 「~しながら」 罇文章後半でも「時」「理由」「条件」「譲歩」のいずれかで訳した方がいい分詞句もある。また文章前半や中盤の分詞句を「そして~」「~しながら」と訳した方がいいこともある。
with O C構文かどうかの見極め法は？	(1) 「with+名詞」の後ろに「形容詞」「分詞」「副詞」「前置詞句」のいずれかがある。 (2) 「(withの後ろの名詞)」とそれらの語句との間に「主語と述語の関係」が成立している。
with O C構文の訳し方は？	基本は「OがCの状態」。それでうまく訳せない時は、「時(~の時・したら)」「理由(~ので)」「条件(もし~)」「譲歩(~けれど・としても)」「そして~(する)」「~しながら」の6種類のうちから文脈に則して適当なものを選ぶ。
(準)否定の副詞(句・節)の倒置の公式は？	(動詞を修飾する)「(準)否定の副詞(句・節)」が文頭に飛び出すと、主節は疑問文と同じ語順になる。 罇このルールを逆に利用して「(準)否定の副詞(句・節)」が文頭に飛び出した英文に出くわした場合、「疑問文と同じ語順になっている箇所」がその英文の主節だと判断するとよい。

not only A but also B(AだけではなくてBもまた)の倒置の公式は?	Aに当たる部分が「疑問文の語順」になる。
M(一般の副詞)を強調する倒置の公式は?	(1) MVS (2) MSV (主語が代名詞の場合) ㊦Mには「場所(時)を表す副詞」「運動の方向を表す副詞(up, down, in, out, off等)」等が多くある。
SVCの倒置の公式は?	(1) CVS (2) CSV (主語が代名詞の場合)
「㊦+㊧+so ~ that S+V…」の倒置の公式は?	「So ~ + 疑問文の語順 + that S+V…」の語順になる。
「㊦+ be動詞 + such that S+V…」の倒置の公式は?	「Such + 疑問文の語順 + that S+V…」の語順になる。 ㊦「㊦は大変なものなので…する」がこの構文の意味。
O(目的語)を強調する語順変化の公式は?	(1) SVO ⇒ OSV (2) SVO: O ₁ ⇒ O ₂ SVO: (3) SVOC ⇒ OSVC ㊦要するに、O(目的語)が文頭に出ても倒置(S+V ⇒ V+S)は起きない。 ㊦ただし目的語に否定語(又はそれに準じる語)がついて文頭に移動した場合は、主節は疑問文と同じ語順になる(つまり倒置が起きる)。 ㊦「SVOC ⇒ CSVO」のパターンはないわけではないが数は少ない。
仮定法で、ifが省略された結果、if節が疑問文と同じ語順になった構文の見極め法は?	(1) 主節に「助動詞の過去形」「助動詞の過去形+have+p.p.～」がある。 ㊦ただしIf節にshouldが入る仮定法の場合主節に、助動詞の過去形がこないこともあるので注意。 (2) ?(クエスチョン・マーク)が文末にないのに疑問文の語順になっている節が文中にある。
「There is ㊦+分詞～」となる構文の特徴は?	㊦と分詞～の間には「主語と述語の意味関係」が成立している。 「㊦は(が)～している(される)」と訳すといい。
「There+㊧(一般動詞)+㊦」となる㊧(一般動詞)の特徴は?	come, live, exist, remain, stand等、「存在・往来」を表す動詞が多くある。 ㊦訳す場合には(Thereは削って)「㊦+㊧」の語順に戻せばいい。

SVOCのOが長すぎると？	SVCOの語順になる。
SVOMが、SVMOの語順になった構文の見極め法は？	「V+(前)+A(名)」という構造の後に、S・O・Cといった特定の役割を持たない「名詞」を発見したら、SVMO型の語順変化ではないかと疑ってかかってみる。
「□ as S+V」の構文の意味は？	「Sは～だけれど」 ☞「Sは～なので」という意味になることもある。
「動詞+as+S+助動詞」の構文の意味は？	「たとえ～としても」
「動詞+疑問詞+S+助動詞」の構文の意味は？	「たとえ～としても」
「Be it (ever so)...」の構文の意味は？	「たとえ～としても」
文中で文法的に説明がつかない箇所に会ったら？	(1)「省略があるのでは？」とまず考えてみる。 (2)省略というのは同じ言葉の繰り返しがあつた場合に生じるもの。 (3)直前部分で、その意味不明箇所と同構造の文を探してみる。 (4)見つかったら両者を並列して省略された部分を補ってみる。 ☞左側にあつて右側にはないものを探してみる。 (5)このような省略が最も生じやすいのは「等位接続詞」と「(比較の) than や as」の右側(後ろ)。
うまく訳せない時に even を補ってあげるといい構文は？	(1)最上級：「どんなAでさえ[でも]」 (2)if 節, though 節：「たとえ～としても[でも]」 (3)after 節：「～の後でさえ[でも]」 (4)when 節：「～の時でさえ[でも]」
「名詞+S+V」という構文に出会ったら？	「S+V」部分を直前の「名詞」にかけて訳す。 ☞名詞とSの間に関係詞が省略されている。
副詞節中の「S+be動詞」が省略される場合のルールは？	(1)その主語が、主節の主語と同一。 (2)そのbe動詞の時制が、主節の時制と同じ。 ☞従位接続詞に直接「形容詞」「副詞」「分詞」「前置詞+名詞」等がかくついた構造を見かけたら、「主語+be動詞」が(従位接続詞の後ろに)省略を考えてみる。

<p>「the+比較級 S + V~, the+比較級 S + V…」の構文の注意点は?</p>	<p>(1) 「V」がbe動詞や become の場合、その be動詞(become)は省略されることが多い。 (2) the+比較級が3つある場合は、and のない方が前後半の切れ目と判断する。</p>
<p>否定の原級比較や比較級の表現で、「(後)as~」「than~」が全て省略されている場合の訳し方は?</p>	<p>(1) その英文の動詞が現在完了なら「今ほど」、過去完了(had+p.p.)なら「その時ほど」を補って訳す。 (2) それ以外の時制ならば「これほど」を補って訳す。 ㊦ただし「これほど」の「これ」が具体的に何を指すのかは文脈で自分で判断する。また動詞が現在完了形でも(文脈上)「これほど」と訳した方がいいこともある。</p>
<p>英文中の(格詞) those の可能性は?</p>	<p>(1) 「the+people」の代用。「~な人々」と訳す。 ㊦those who+V~で「~する人々」は頻出。 (2) 「the+既出の複数名詞」の代用。</p>
<p>英文中の others の可能性は?</p>	<p>(1) 「other people」の代用(「他(の)人」と訳す)。 (2) 「other+既出の複数名詞」の代用。 ㊦many, few, some, any, each, all等や、数詞・分数等の後ろに people(又はthing(s)) が省略されていることもある。 ただし、前の英文中に many, few, some 等が指す具体的な名詞がある場合には、people ではなくその(具体的な)名詞を後ろに補ってあげなければならない。</p>
<p>how節の英文中での役割は?</p>	<p>(1) 文の主要素(S・O・C)になる。 (2) 前置詞・準動詞の目的語になる。 ㊦要するに必ず「名詞節」になる。</p>
<p>how単独型の how の訳し方は?</p>	<p>(1) 「どのように(な)○○か/どうやって○○か」 (2) 「○○の仕方、やり方、様子、(あり)様、実(際)状」「(…である)ということ(の次第)」 (3) 「どうして」「なぜ」</p>
<p>直後の「形容詞」「副詞」を修飾する how の訳し方は?</p>	<p>「どれほどの(の)○○か」 「どれくらいの(の)○○か」</p>
<p>文[節]頭の不定詞句の見極め法は?</p>	<p>(1) 不定詞句の直後に「④」があれば、その不定詞句を⑤と判断し「~すること」と訳す。 (2) 不定詞句の直後に「⑤+④(主節)」があればその不定詞句は副詞句。 ㊦意味は「~するために[目的]」「もし~なら」あるいは to be sure 等の決まり文句。 (3) ただし「To do[願]~, ⑤+④…」型の To do[原形]~の90%は、「~するために[目的]」。</p>

	(4) 「To do[願]~, 命令文…」の場合は「~するためにはもし~すれば、…せよ」と訳す。
文[節]頭の Doing~ の見極め法は?	(1) Doing~句の直後に「④」があれば、そのDoing~句を⑤と判断し「~すること」と訳す。 (2) Doing~句の直後に「⑤+④(主節)」があればそれは副詞句。分詞構文と見る。「時」「理由」「条件」「譲歩」のどれかで訳せることが多い。 (3) ただし、「Doing~ ④+⑤」の倒置構文もあるので注意。
文[節]頭の Whether節の見極め法は?	(1) Whether節の直後に「④」があれば、そのWhether節を⑤と判断し「~かどうか」と訳す。 (2) Whether節の直後に「⑤+④(主節)」があればそのWhether節は副詞節。「~であろうとなかろうと」と訳す。 (3) ただし、「Whether節 ⑤+④」の(目的語を文頭に置いて読んだ)構文もあるので注意。
文[節]頭の Who[What/Which]+ever節の見極め法は?	(1) Who[What/Which]+ever節の直後に「④」があれば、最後を「~でも(みな)」でまとめてしまえばいい。つまり「~するものは誰/何/どちらでも(みな)」と訳す。 (2) Who[What/Which]+ever節の後ろに「⑤+④(主節)」があれば、最初と最後を「たとえ~しても」でまとめてしまえばいい。つまり「たとえ誰/何/どちらが[を]~しても」と訳す。
同格用法で、カンマ(,)以外に同格表現の直前に置かれるものは?	「コロン(:)」「セミコロン(;)」 「ダッシュ(-)」 「that is (to say)」 「namely」 「(,) or」。 (カンマ含め)これらは「即ち」「つまり」などと訳すといい。
「名詞+名詞」以外の同格のパターンは?	(1) 「A(名詞)+名詞節:~というA」 ④名詞節は、具体的には that節・whether節「~かどうか」・if節「~かどうか」・疑問詞節等。 (2) 「A(名詞)+of+B(名詞): BというA」 「A(名詞)+of+doing~:~するというA」 (3) 「A(名詞)+to do[願]~:~するというA」 (4) 「文+名詞」 ④このタイプの場合、「名詞」の前に「接続詞+ it is[was]」を補ってみるといい。 (5) 「副詞(句・節)+副詞(句・節)」。 (6) 「節+節」の同格。

<p>英文中でのカンマ(,)の働きは？</p>	<p>(1) 並列のカンマ (2) 挿入のカンマ ^會挿入のカンマにはさまれた部分は基本的に文の主要素にならない。 (3) その他のカンマ ① 副詞節(句)と主節とを区切るカンマ ② 「同格」のカンマ ③ 「,+関係代名詞」 1.カンマ(,)で一旦区切る ^會関係詞節を前の先行詞にかけて訳さない。 2.カンマ(,)を接続詞(and・but・because)とみなして訳す。 ^會どの接続詞とみなすかは前後の意味関係で自分で判断する。 3.関係代名詞は、単なる(直前の先行詞を指す)代名詞とみなして訳す。 4. 「,+which」は前の英文全部(又はその一部)を先行詞にとることもできる。 ④ 「,+関係副詞」 「, where」は「接続詞+there(そこで)」 「, when」は「接続詞+then(そのとき)」 と考える。 ^會接続詞は文脈判断でand・but・because)のいずれかを補う。 ⑤ 主語(主部)が長いことを詫げるカンマ</p>
<p>英文中でのセミコロン(;)の働きは？</p>	<p>(1) 接続詞(and・but・because・though等)の代用をする。 ^會文中のセミコロンが、どの接続詞の代用となっているかは、前後関係から判断する。 (2) 同格のセミコロン。 ^會「つまり」「すなわち」と訳す。</p>
<p>英文中でのコロン(:)の働きは？</p>	<p>その後に直前の内容を言い換えたり説明し直したりする内容が来ることを予告する記号。 「つまり」「すなわち」と訳す。</p>
<p>英文中でのダッシュ(-)の働きは？</p>	<p>(1) 挿入のダッシュ。 ^會挿入のダッシュにはさまれた部分は基本的に文の主要素にならない。特に挿入部分が名詞の場合は、(前と)同格の可能性が高い。 (2) 同格のダッシュ。 ^會「つまり」「すなわち」と訳す。</p>
<p>文頭の Of の働きは？</p>	<p>(1) 「~について(=about)」 (2) 「~の中で、うちで(=among)」 ^會(2)の可能性が最も高い。 (3) 「of+抽象名詞」が文頭に飛び出した倒置構文。 ^會「Of+抽象名詞 V+S」の語順になる。</p>

冠詞・所有格と名詞の間に置かれた語句の働きは？	形容詞として直後の名詞を修飾する働きしかない。
英文中の形容詞の意味は？	60%は「良い」か「悪い」、つまり「good」型か「bad」型で分類できる。
連鎖関係詞節のうまい訳出法は？	(関係詞直後の)「S+V ^t 」の部分を一旦()でくくってしまい、それを(関係詞節内の和訳の最後)にもってくる。 ④連鎖関係詞節を導く関係代名詞は省略されることがある。その場合、 「名詞+S+V ^t V～」 「名詞+S+V ^t S+V～」 という構造になる。
英文中の副詞句[節]のうまい訳し方は？	以下の訳のどれかにおさまることが多い。 ①「時(～とき・ながら・と共に) ②「条件(もし～なら)」 ③「原因・手段(～ので・～により・～のおかげで)」 ④「譲歩(～けれど・としても) ⑤「比例(～につれて・と共に)」 ⑥「目的(～するために) ⑦「様態(～のように)」 ⑧その他(「場所(～の場所で・に)」「制限(～に関する限り)・程度」「比較(～より・～と比べて)」「添加(～に加えて)」等) このうち①～④の意味になることが最も多い。
「the way S+V～」の訳し方は？	(1) S・O・C、又は前置詞の目的語になっていれば「～のやり方[方法]」「～の様様子・過程」「どのように～」と訳す。 ④この場合、「how S+V～」[the way[manner] in which S+V～]「the way[manner] that S+V～」で言い換え可能。 (2) それ以外なら「～のように」と訳す。 ④この場合、「as S+V～」で言い換え可能。
関係代名詞の as を用いた慣用表現で代表的なものを2つ挙げるなら？	(1) as is often the case with A 「Aにはよくあることだが」 (2) as is usual with A 「Aにはいつものことだが」
(副詞節を導く)接続詞の when の意外な意味として特に覚えておきたいのは？	(1) 「(...すると)とそのとき」 (2) 「～なのに、～だというのに、～だけれど」「だとしても」 ②が最も頻出。 (3) 「～なので」
(副詞節を導く)接続詞の where の意味は？	(1) 「～する所に[で・へ]」「～する場合には(必ず)」 (2) 「～する所はどこ(へ)でも」 =wherever (3) 「～する[である]のに」 =whereas 「～する[である]限りは)」

<p>「as S+V～」となる as の訳し方は？</p>	<p>(1) 70パーセントは「時(～のとき・ながら)」か「理由(～ので)」。 <small>會まずそれで訳してみてもかまいません。次の可能性を考えてみてください。</small></p> <p>(2) 節内の動詞(つまりas S+Vの「V」)が「変化(～になる、増える、減る等)」や「進行(ゆく、過ぎる等)」を表していたり、また節内に比較級が使われていたら、「～につれて[ともなつて]」。</p> <p>(3) as 節内が「不完全な文」や「直前と同じ形の繰り返しの文」になっていたら「様態(～のように・～だが)」。</p> <p>(4) as の前後で否定と肯定が入れ代わっている場合は「～とは違って」と訳すといいいことがある。</p> <p><small>會ちなみに「as+A(名詞)」となる as は前置詞。「Aとして(は・の)」が基本。ただし「as + A(人生の(過去の)成長段階)」は「Aの頃、Aの時(になって)」と訳すことが多いので注意。</small></p>
-------------------------------	--

會「LBR Check Sheet」で紹介しているの技法・ルールの詳細な説明・解説、更に演習については、

「英文読解スマートリーディング LESSON BOOK」(アルク刊)
「ハイパー英文読解 パーフェクトルール70」(長崎出版)

に記載されています。上記の技法・ルールの完全修得のために、同書を読み込んでみるのも、磐石の英文読解力を手に入れる効率的な学習法となることでしょう。